第43回 憲法を考える映画の会
「グラニート 独裁者を追い詰めろ」
手元資料

■日時　2018年6月03日（日）13時半～16時半　作品❶
　　2018年6月30日（土）13時半～19時　　作品❷❶
■会場　文京区民センター3A会議室
■映画　❶『**500年 権力者を裁くのは誰か**』（108分）
　　❷『**グラニート 独裁者を追い詰めろ！**』（105分）

資料❶　映画情報『500年』

資料❷　映画情報『グラニート』

資料❸　過去の虐殺をどう立証するのか？
“Democracy Now!” 中野真紀子さん

資料❹　「映画のその後、グアテマラの今」
専修大学教授狐崎知己先生に聞く

資料❺　戦時性暴力を裁いた
セプル・サルコ裁判
―グアテマラ女性の闘いと日本
東京造形大学教授前田朗先生

資料❻　ガラス細工の民主主義・
中米グアテマラ報告
1989年4月11日 週刊アエラ
朝日新聞記者　伊藤千尋さんの記事から

資料❼　グアテマラ内戦関連年表

資料❽　アメリカと中南米の関係史

資料❾　「憲法を考える映画の会」からの
お知らせ

■3日（日）のプログラム
13：00　開場（準備）
13：30　開会・上映『500年』
15：40　トークシェア
16：30　閉会予定

■30日（土）のプログラム
13：00　開場（準備）
13：30　開会・上映『グラニート』
15：40　トークシェア
17：00　上映『500年』
19：00　閉会予定

資料❶　映画『500年 権力者を裁くのは誰か』解説

500年：権力者を裁くのは誰か

1980年代、軍事独裁政権下の中米グァテマラで20万人ものマヤの人々が虐殺されたという。
21世紀、ついにその責任を問うべく法廷が開かれる。過去の虐殺をどう立証するのか。
民族衣装をまとって証言する女性たち、防弾ジョッキをつけて法廷に臨む裁判官。
はたして、自国の元最高権力者を裁くことはできるのか？

歴史的な裁判シーンが、この映画の前半のハイライトとなる。
1980年代、中米の小さな国グァテマラで、軍が20万人以上のマヤ先住民を虐殺し、 100万人の難民を生んだ。それから30年以上の時を経て、このおぞましい事件の責任を問うために、元国家指導者が大量虐殺の罪で訴追される。
元国家元首が、自らの国で、虐殺の罪で裁かれるという前代未聞の裁判。

この裁判で、イニシアチブを取ったのは、女性たちの姿だった。民族衣装をまとった姿で、家族を虐殺され、自らもレイプ被害に遭った先住民の女性たちが命を賭けて証言するその法廷で、その「人道に反する罪」の首謀者として、リオス・モント元大統領を裁く裁判長も女性。
一方で、そのリオス・モント元大統領を「良き父であり、虐殺はでっち上 げ」と主張する美しく着飾った白人女性の娘スリ・リオス。

「500年」という作品タイトルは、コロンブスがアメリカ大陸に到達してから500年を経た現在、そこにもともと住んでいた先住民が、どのような状況に あるのかを問いかけるものであり、非営利映画制作団体 Skylight社が制作した 前作「Granito: How to nail a Dictator (グラニート・独裁者を追いつめろ)」の続編とも言える。
前作では、1980年代のグァテマラでの虐殺事件の責任を問うために、スペインでの審判を求める運動をカメラが追った。しかし、その裁判で、リオス=モント元大統領は有罪を宣告されたにもかかわらず、グァテマラ当局は、引き渡しを拒絶する。
「ならば、この犯罪はグァテマラ人が自らの手で裁かなくてはならない」
人権運動家らの動きで、ついにはじまったグァテマラでの歴史的裁判が、この映画の前半の見どころとなる。
　とはいえ、前作とは登場人物は入れ替わっており、前作を知らなくても、十分に興味深く、かつ、スリリングに物語は展開する。

そして、息詰まる法廷闘争の末、裁判長は、虐殺の存在と大統領の関与を認定し、禁固50年の刑を宣告する。
国家元首が自国の司法制度で、「人道に反する」罪で裁かれたのは、ラテンアメリカのみならず、これが世界で初めてのことだった。

それは、先住民の人々にとっては感動の一瞬だった。
しかし、リオス・モントの後継者であり、虐殺の存在を否定する現大統領(当時)オットー・ペレス =モリーナをはじめ、グァテマラを寡頭支配する人々は、この裁判の結果に激しい異議を唱え、その結果、この歴史的判決は、憲法裁判所で無効とされてしまう。

しかし、それでも先住民の人々の闘いは終わらない。
やがて明らかになったオットー・ペレス=モリーナ大統領の汚職問題は、ペレス=モリーナ自身も虐殺に関わっていた疑惑もからみ、先住民だけでなく、都市の住民、世代を超えた人々を巻き込んでの、大統領辞任を求める国民的な運動へと広がっていく。
日本ではほとんど知られていない、この歴史的裁判とその後に起こった一連の出来事、さらに、それにかかわった人々の姿をとらえた迫真の映像の迫力とともに、何度でも立ち上がる人々の姿は感動的である。

製作：Skylight Pictures
監督：Pamela Yates
日本語版制作：長谷川ニナ　八木啓代
2010年制作・アメリカ・グアテマラ合作映画・105分

「500年」公式サイト：
http://500years.latinamerica-movie.com/

資料❷　映画『グラニート　独裁者を追い詰めろ！』解説

グラニート：
独裁者を追い詰めろ！

1980年代の軍事独裁政権下の中米グァテマラで20万人ものマヤの人々が虐殺されたという。
過去の虐殺をどう立証するのか。
その責任を問うべく、スペイン・グァテマラ・ニューヨークを結んで、国際法廷での息が詰まるような攻防が始まる。

ある日、ニューヨークのドキュメンタリー映画作家パメラのもとに、スペインの国際弁護士アルデムナから連絡が入る。
現在、スペインで進行中の、「80年代の中米グァテマラでの先住民大量虐殺事件」について、当時の独裁者リオス = モント将軍を国際法廷で訴追するための証拠を捜しているというのだ。
パメラは、80年代にグァテマラで、虐殺事件の取材をしたことがあった。
その経験をもとにドキュメンタリー映画『山が震えるとき』を発表し、サンダンス映画祭グランプリを獲得、また、その主要出演者だったマヤ・キ チェー族の女性運動家リゴベルタ・メンチュウを世界に紹介したことがある。
しかしまだ、グァテマラでの膨大な未編集のフィルムが倉庫に眠っている。
これらを証拠に、行方不明者45000人を含んで、20万人にも及ぶグァテマラのジェノサイドとその責任を立証できるか。

アルデムナの依頼に応じてフィルムを捜すうち、彼女の過去の記憶が鮮烈に蘇る。
山地のゲリラ軍に極秘裏に接触した経験、その事実を隠して軍関係者と親しくなり同行取材した経験、大統領自身とのインタビュー ....。
そして、この国際法廷での証拠捜しと証言を通じて、20年の時を経て、ふたたび彼女は、当時の関係者と相まみえることになる。
彼女に山で取材する ことを許したゲリラ司令官、彼女が乗っていた軍のヘリを撃墜した先住民ゲリラ兵士、何者かかから軍の秘密書類を託された女性ジャーナリスト。
そして、軍によって村ごと虐殺され、家族も皆殺しにされた中で、奇跡的に生き残った先住民の男性...。
さらにパメラの取材は、現在のグァテマラに続く。
生命の脅迫を受けながら、グァテマラ市内から、次々発掘される死体を調査する死体考古学者、父親が行方不明になったまま成長した少女。

大量に発見された警察の極秘文書。
笑って虐殺の存在そのものを否定する大統領自身に対し、彼が当時のジェノサイドの最高責任者であったことをどう立証するか。
スペインの裁判所は、それに対してどう判断を下すのか。

彼らの息が詰まるような攻防が始まる。

製作：Skylight Pictures
監督：Pamela Yates
日本語版制作：長谷川ニナ　八木啓代
2010年制作・アメリカ・スペイン・グアテマラ合作映画・105分

「グラニート」公式サイト：
http://granito.latinamerica-movie.com/

資料❸　過去の虐殺をどう立証するのか？

＊“Democracy Now!”日本語版に中野真紀子さんが書かれた記事から中野さんのご厚意により掲載させていただきます。

中央アメリカの国グアテマラは1950年代前半の民主化が米国の干渉で阻止されて以来、軍の親米派と反米派や左派の 対立が続き、1960年に始まった内戦が96年の和平合意まで36年間も続きました。親米軍事政権は反体制派のゲリラ戦に対抗するため、ゲリラや左派が潜 入していると見られるマヤ系先住民の村を襲撃して焼き払い、住民を大量虐殺しました。

この内戦で推定20万人が殺害または行方不明になりましたが、その多くは1982年に権力を掌握した元将軍エフライン・リオス・モントの1年半の統治下に 集中しています。この時期のすさまじい弾圧と虐殺については内戦終結後も誰も責任を問われることなく、政府は事実を否定しつづけました。虐殺に直接かかわった人々が権力の中枢に居座り、人々は恐怖によって口を閉ざし、司法は無力化されていました。極悪な犯罪を免責してきたことが、麻薬組織が幅を利かせ暴力事件が日常化する現在の状況を招いたとグアテマラ法医人類学基金のフレディ・ベチェリは指摘します。

ところが、そんなグアテマラで、2013年5月に驚くべき事件が起こりました。グアテマラの裁判所がリオス・モント 元将軍に対し、ジェノサイドと人道に対する罪で、80年の刑を宣告したのです。中南米はもちろん、世界中を見渡しても元国家元首が自国の司法制度の中で ジェノサイドの罪で裁かれるなんて初めてのことですし、しかも有罪判決が出たのです。

死んだかのように思われていたグアテマラの司法が息を吹き返した背景には、重大犯罪に断固として裁きを求める人々の地道な活動と国際ネットワークの働きがありました。この映画に描かれているような、闇に葬られた過去を掘り起こし、記憶の断片を拾い集めて証拠を積み上げる丹念な作業が裁判所を動かしたのです。そうした無数の努力を結晶させたのは、3人の女性の強い信念と桁外れの勇気にもとづく行動でした。

先住民出身の人権活動家で、ノーベル平和賞を受賞したリゴベルタ・メンチュウ は、グアテマラの司法で過去の権力者の犯罪を裁くのは無理だとして、1999年にスペインの裁判所にリオス・モント時代の集団虐殺についての訴状を提出し ました。この行動が後に、スペインの裁判所が普遍的管轄権を適用してグアテマラの大量虐殺の提訴を受理するという動きにつながります、2006年スペイン 最高裁判所は、グアテマラ政府に対しリオス・モントなど7人の元政府高官の引き渡しを要求しました。

しかしリオス・モントは選挙に出馬して国会議員の不逮捕特権を手に入れて抵抗し、結局スペインでの起訴は不発に終わりました。でも、これがグアテマラ国内 の司法に刺激を与え、自国の独裁者の罪は自分たちの手で裁くべきだという機運が盛り上がったのです。2010年グアテマラ初の女性検事総長に就任したクラ ウディア・パス・イ・パスは、軍政時代の虐殺や拷問の責任追及に乗り出しました。露骨な脅迫や妨害にもひるまず彼女は訴追を続行させ、ついに2012年1 月、議員の任期が切れたリオス・モントがジェノサイドと人道に対する罪で起訴されました。

この裁判を担当するのも女性判事のヤスミン・バリオスです。彼女は防弾チョッキをつけて法廷に通い、文字通り命がけで有罪判決を読み上げました。この肝の すわり方は尋常ではありません。おびただしい犠牲者を出したグアテマラの恐怖政治の過去に立ち向かうには、こういう気迫が必要なのでしょう。この力が、人 権の歴史に大きな一歩を刻む判決をもたらしました。

画期的な判決ではありましたが、10日後には憲法裁判所によって取り消し命令が出て裁判のやり直しを行うこととなり、今のところ被告人の高齢を理由に再審 は延期されています。ジェノサイド裁判の続行を困難にした理由の一つは、2011年に大統領に選出された元将軍オットー・ペレス・モリナが、リオス・モン ト政権の下で虐殺を実行した張本人であることです。この裁判が進めばいずれ我が身にも追及がおよぶ人物が大統領なのです。

しかし、そのペレス・モリナ大統領もつい最近、汚職事件を糾弾する大規模な大衆の抗議運動によって退陣を余儀なくされ、議会により大統領の不逮捕特権を剥 奪されて辞職と同時に逮捕されました。これが過去のジェノサイド関与の訴追にまで発展するかどうかは今後を見守らないとわかりませんが、権力で過去を隠蔽 する力は少しずつ崩されてきているようです。この国では軍や特権的財閥に立てつく者はたちまち惨殺されてきたことを考えると、このような社会の変化が起き たことはすごいことです。そうした変化をもたらしたものは何かを考えさせるのが、映画「グラニート」です。（中野真紀子）。

資料❹　「映画のその後、グアテマラの今」
専修大学 教授 狐崎知己先生に聞く その１

＊2016年3月18日、「グアテマラ虐殺の記憶」を翻訳された専修大学教授の狐崎知己先生にお聞きしました。

Q. 2013年、国内の裁判でジェノサイド、人道に関わる罪で元大統領リオス・モントが有罪になったと聞きましたが、その後裁判はどうなっているのでしょうか？

A.　裁判は1996年の平和協定によって創設された特別法廷においてアレックス・ロドリゲスとリオスモントの二人を被告に裁判されました。

B.　さまざまな訴訟妨害が行われたのですが、2013年3月5日判決が下され、ジェノサイドと人権に関わる罪でリオス・モントは80年の懲役に付され、1日だけ収監されました。

C.　特別法廷は不服のある場合、直接最高裁の上告されるのですが、最高裁での裁判を前に、特別法廷での裁判での不備を理由に事実上の差し戻しとなってしまいました。

D.　不備というのは、弁護側の戦術で特別法廷での審理中、1週間だけ弁護士が出廷しなかったことがあったのですが、最高裁はそれを不備としてそれ以前に戻って審理するように命じ、事実上の最初からのやり直しになってしまいました。

E.　そのやり直しの審理が2016年3月17日（このインタビューの前日）から始まりましたが、リオス・モントは法医学研究所の医師の診断では「老人性痴呆症で出廷できない」ということで、現在弁護士のみの裁判で裁判は続いているという状態です。

Q.　元大統領の訴追はできなくなるということでしょうか？

A.　ただ平和協定によるジェノサイドと人道に対する罪を問う裁判は免責がなく、世界のどこでも裁判ができるということになっているので裁判は続きます。

B.　グアテマラでも国連による真実委員会が内戦のときの8000人に対して聞き取り調査を行っています。マヤ族の中のイシル族というところでの裁判は1300人が殺されたということに対するものですが、これがまず結審したということで、ほかに3つの民族での虐殺に対する裁判が現在も進行中です。

C.　元大統領が80年の刑を受けて1日しか収監していないと言うことですが、それまで弾圧に対してグアテマラで闘ってきた人や苦しめられたグアテマラの民衆にとっては1日だけの収監であっても報われた、正義を勝ち得た思いでいると思います。

Q.裁判は困難を極めたとお聞きしましたが？

A.　裁判妨害は続いています。

B.　特別法廷の裁判長はハスミン・バリオスと言う女性ですが、自宅の一部を爆破されています。リオス・モント訴追の中心になった当時の最高検察長官のクラウティア・パスイパスも女性なのですが、この人も事実上の亡命を強いられサンフランシスコで暮らしていますし、ジェノサイドと先住民に対するレイシズムの関係を証言した著名な研究者マルタ・カスウスは、母親を含め家族と共にスペインに避難しています。

C.　これらの人はいずれも女性、グアテマラの裁判では女性が活躍しています。

Q.リオス・モント元大統領の有罪判決によってグアテマラは変わりましたか？

A.　1日だけの収監といっても有罪判決が出たことで国民の溜飲は下がったと思います。しかし政治自体は軍が実権を握っている状態に変わりなく、それを動かしている利権構造や犯罪組織の支配など脅迫で動く政治の構造は変わっていません。

A.　ただ二つの点で裁判は成果をもたらしました。

①　グアテマラ北東部のセプルサルコ（アルタベラス県）での虐殺で男性は虐殺、女性は性奴隷にされたという判決がこの1月に出ました。
それに関わった将校が240年、軍務委員が120年の有罪刑になりました。軍人による虐殺、性奴隷化の罪で軍人が実刑になる事実を作った最初の例になりました。

②　裁判が進められていた当時、大統領であったオットー・ペレスが汚職によって事実上辞任しました。
オットー・ペレスはリオス・モントが司令官として虐殺に関わった時に情報将校として正に虐殺の現場にいたのですが、これまで汚職事件は軍がつぶしに係ったのですが、先の判決を受けてか、大統領が辞任するまで汚職事件発覚をつぶしに動かなかったという事実があります。
軍も無茶はできないという動きに変わりつつあるということがあると思います。

資料❹　「映画のその後、グアテマラの今」
専修大学教授狐崎知己先生に聞く その２

Q.　現在のグアテマラの政治情況はどうなのでしょうか？

A.　現在はジミー・モラレスいう喜劇役者が大統領になっています。これは軍の極右勢力が担いでいるほとんど傀儡政権で民主化という面から見たら、いい状態ではありません。選挙と正義は別のロジックで動くという難しいところです。

B.　現在国連の司法調査機関（CICIG）が入って利権構造や地下組織の摘発をしているので、軍としてもうかつには動けないという状況があります。ただ国連に頼りすぎてしまっていて司法側としては不満に思っているという情況もあります。

C.　国民は既成政党への不信が強くあります。先住民族の運動でノーベル平和賞をもらったリゴベルタ・メンチュウなども大統領選に出ていますが、数%の支持でしかない。とくに1980年からの世代、失われた世代と言われる教育を受けていない世代の問題が大きくあります。『グラニート』の映画の中でも元ゲリラの司令官で、殺された人々の情報を調査している人物が「自分たちのできることは限られている、後は若い人に」と語っているところがありますが、民主化の活動にしても世代の格差・継承が大きな問題になっています。

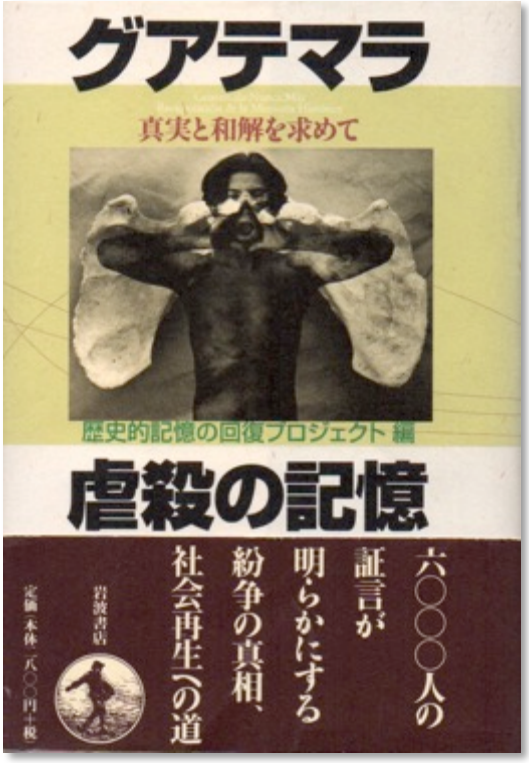
Q.　アメリカの介入は現在どのようなのでしょうか？

A.　アメリカから見てもグアテマラは、コロンビアからメキシコに至る麻薬の中継地点のようなところで、治安の悪さに手を焼いています。オバマ政権はアメリカに入ってくる中米からの移民を大量に強制送還しています。

B.　たしかに1950年代民主的なハコボ・アルベンス政権を軍事クーデターによって倒したのもアメリカのCIAですし、1960年代、グリーンベレーがゲリラ掃討として虐殺を行っています。しかしクリントン大統領以降、アメリカも反省しているようです。今回の特別法廷でも必ずアメリカ大使は傍聴していて、問題を感じるとE.U.諸国の大使を呼ぶという動きで裁判する側を支えています。日本は呼ばれていないのか、行こうとはしないのかなぜかそうした裁判には傍聴に出ることはありません。

Q.　日本はグアテマラ最大の援助国と『グアテマラ虐殺の記憶』にありましたが？

A.　日本も国連のやることには協力していて虐殺の聞き取り調査報告書の出版は資金的に日本の協力によってできました。また難民を国に戻す費用を出したりと積極的でした。ただ多くの協力はインフラの整備など経済成長促進型の協力ですね。　（文責：花﨑哲）



グアテマラ虐殺の記憶
真実と和解を求めて 歴史的記憶の回復プロジェクト編

飯島みどり/狐崎知己/新川志保子 訳
岩波書店 刊
6000人の証言が明らかにする紛争の真相、社会再生への道（書籍帯に記載）
歴史的記憶の回復
何十年にも及んだ恐怖支配の間、犠牲者は沈黙を強いられ、残された者同士で恐怖や離別の悲しみを分かち合うことも真相を訴えて責任者を告発することも禁じられてきた。政治暴力は個人を傷つけ、社会を破壊しただけでなく、一人一人が感情を表して自らの経験を語る権利をも奪い続けてきたのである。（「はじめに」より）

資料❺　戦時性暴力を裁いたセプル・サルコ裁判
―グアテマラ女性の闘いと日本

「世界へ未来へ 9条連ニュース」2016年3月20日号から
前田朗先生のご厚意で転載させていただきます

平和と人権を考える ③

戦時性暴力を裁いたセプル・サルコ裁判
―グアテマラ女性の闘いと日本

東京造形大学教授　前田（まえだ）　朗（あきら）

2月26日、グアテマラのハイリスク裁判所はグアテマラ内戦時における女性に対する性暴力事件につき被告人に有罪を言渡した。戦時性暴力の裁きは旧ユーゴスラヴィア国際刑事法廷、ルワンダ国際刑事法廷、シエラレオネ国際法廷などの前例があるが、事件が起きた当該国家の裁判所による裁きは初めてだろう（以下、日本ラテンアメリカ協力ネットワークの新川志保子さんからの情報による）。

被告人はエステエメル・レジェス・ヒロン中尉と軍コミッショナーのエリベルト・バルデス・アシフ（いずれも当時）である。判決は、①戦時下の性暴力・性奴隷の被害（人道に対する罪）、②被害者3人の殺害、③7人の強制失踪について判断した。

1982～83年、マヤ・ケクチ先住民のコミュニティであるセプル・サルコに軍が駐屯地を作ったが、そこはゲリラの活動地帯ではなく、土地を奪われ人々が土地回復運動をしていた。このため土地所有者が軍に要請して先住民を「敵（ゲリラ）」として攻撃対象とした。セプル・サルコは伝統的家父長制の村であり、夫がいなくなることは女性の孤立を意味し、女性への性暴力・性奴隷の強制は尊厳を踏みにじり、「敵」を破壊する手段とみなされ、コミュニティ全体への攻撃であったとし、被告人らの行為は人道に対する罪であるとした。ドミンガ・コクとその娘2人の殺害、及び7人の強制失踪についても事実を認定し、レジェフに120年、アシフに240年の刑事施設収容を言渡した。

裁判長は「女性たちが受けるべき尊敬と価値をここに認めます。彼女たちは30年以上も沈黙の中で待ち続けたのです」と述べた。判決後、傍聴人が総立ちになり、大きな拍手がしばらく鳴り止まなかった。長く苦しい道のりを経て女性たちが正義を勝ち取った瞬間である。

女性国際戦犯法廷の継承・発展

検察官と共同告訴人となったのは被害女性団体「ハロク・ウ」及び「沈黙を破る女性たち連合」、女性弁護士団体「世界を変える女たち（MTM）」、女性団体「グアテマラ全国女性連合（UNAMG）」である。

故・松井やよりが提唱し、日本とアジアの女性たちが取り組んだ日本軍性奴隷制を裁く2000年女性国際戦犯法廷の際、世界の戦時性暴力に関する国際公聴会が開催された。そこにグアテマラから参加した女性が「変革の主体」プロジェクトを立ち上げ、内戦時の性暴力の告発を続けた。その活動ゆえに松井やより賞を受賞。「変革の主体」プロジェクトはその後「沈黙を破る女性たち連合」へと発展し、2010年に民衆法廷を開催した。そして2011年に告訴を行い、ついに本年2月1日より公判が始まった。

被害女性たちは自身が受けたすさまじい暴力だけでなく、夫を殺され、着の身着のままで逃げ込んだ山中で飢えと寒さのため子どもが死んだこと、今も極貧状態で苦しみ続けていることを証言した。訴追側からは、目撃者のビデオ証言と、軍事戦略、心理学、ジェンダー、紛争下での暴力、先住民等について専門家証言が行われた。その結果として今回の有罪判決が出た。

女性国際戦犯法廷の継承・発展により、世界の戦時性暴力が裁かれる時代になった。「慰安婦」問題の解決を求める闘いが世界を変え始めたと言える。

資料⑥　『ガラス細工の民主主義 中米グアテマラ報告』その１

この原稿は、1989年4月11日「週刊アエラ」に掲載されたものを、元朝日新聞記者の伊藤千尋さんのご好意で使用させていただきました。

貧困と内戦にあえぐマヤ文明の末裔たち

古代マヤ文明の国、中米グアテマラに誕生したばかりの民主主義が危機に瀕している。貧富の差に怒る左翼ゲリラの攻勢、軍部や極右の市民虐殺、たび重なるクーデター未遂－－貧困と流血の中で、インディオら市民は軍政復活の影におびえている。
（編集部 伊藤千尋、写真 ジェームス・ナットウェー＝マグナム）
ビニシオ・セレソ大統領（４６）は、日本人に空手を習い、黒帯を締める腕前である。自宅の一室を道場にして、週３日の練習を怠らない。かつては護身用にピストルを持ち歩いた。３度も右派から命を狙われたからだ。狙撃手と５０発以上を撃ち合う銃撃戦を演じたり、家にバズーカ砲を撃ち込まれたこともある。もちろん大統領になる前のことだが、内戦下のこの国では、これが政治にかかわる人間の日常なのだ。
愛読書はクラウゼビッツの『戦争論』。「戦争は政治の延長である」と書いてある。しかし、グアテマラの政治評論家は、
「わが国の政府は、政治を戦争の延長とみている。政治につまずけば、たちまち戦争状態に還る」
と嘆いた。
セレソ氏が選挙で大統領に就任したのは８６年だが、それまでの３１年間は軍が支配した。武力による政権奪取が続き、８０年代に入っても２度の軍事クーデターが起きた。
グアテマラはコーヒー、綿、バナナなどを主産物とする農業国である。しかし、人口の１％の地主が全耕作地の７２％を所有する一方、農民の８５％がほとんど土地を持たない小作農だ。ほんの一握りの支配層が豊かな生活をする中、大多数の国民は飢餓寸前の暮らしを強いられている。

○大統領も命を狙われた
これに異議を唱え社会改革を求めようものなら、
「あいつは共産主義者だ」
といわれる。それは死刑宣告に等しい。数日後には街角で死体となって発見される。右翼は「死の部隊」と呼ばれる暗殺集団をいくつも作った。秘密警察の中に「技術捜査局（ＤＩＴ）」という暗殺専門組織もできた。今は解体されたものの、かつてセレソ氏の命を狙ったのは、このＤＩＴである。
殺さぬまでも、体制変革の動きには厳しい弾圧が加えられてきた。この１月、小作農民組合は全国から８０００人を動員して賃上げストに入った。１日当たり約４８０円でしかない薄給を倍にせよ、との要求だ。しかし、地主は失業者をかき集めてスト破りに使い、軍は武装兵士を農園に張り付けた。地主は既得権益を守るため軍の力を利用し、軍は国政の実権を握る。この構図が長年にわたって政治を決めた。
左翼ゲリラが武装闘争を開始して約３０年になる。４つのグループはいずれもマルクス主義を掲げ、統一組織「グアテマラ革命連合（ＵＲＮＧ）」をつくっている。総兵力は８１年の最盛期に１万２０００を数えた。
これに対して政府軍は、乱暴きわまる掃討作戦を展開してきた。
「ゲリラは、農民の海の中を泳ぐ魚のようなものだ」
と考え、「海」を干上がらせる戦法に出た。ゲリラ出没地帯の村を焼き払い、村民を村ぐるみ虐殺したりした。昨年１１月、首都に近いエルアグアカテ村でインディオ農民２２人の虐殺死体が発見された。縛られ拷問された傷があり、背に銃弾が撃ち込まれていた。この２月にジュネーブで開かれた国連人権委員会で政府軍の人権侵害が国際的な非難を浴びた。しかし、これでも以前よりはましなのだ。

○「戦略村」で押さえ込む
８２年１０月、メキシコ国境の村を襲った政府軍は、村人を教会と警察署前の広場に集めて一斉射撃し、山刀で死体の首をはねて３０２人を殺した。最後に残った子ども７人を１列に並ばせ１人ずつ順に撃ち殺す残虐さだった。８１年には、軍は毎月平均３５０人の農民を殺したといわれる。８２年から８３年にかけて軍が焼き打ちした村は４４０にのぼる。同国の人権団体は、この間に軍の手で１０万人が虐殺された、と告発する。
黙っていては殺される、と知った農民は、越境して隣国メキシコに逃げるか、山を登ってゲリラ支配区に入った。メキシコには６８のグアテマラ難民キャンプがあり、４万人がその日暮らしの生活を送っている。
山に入った人々には、より悲惨な生活が待っていた。
「食べ物も着物も家もなく、草や木の根を食べ、いつも爆撃から逃げ回る生活」なのだ。ゲリラ戦士になった筋金入りの少数の人々を除き、大多数は不自由な生活に疲れてきた。ことしに入って山を降り投降する農民が急増している。

資料⑥　『ガラス細工の民主主義　中米グアテマラ報告』その２

政府は彼らを「再教育センター」に３カ月間収容して洗脳し、新たに建設した「モデル村」に住ませ、ゲリラから隔離した。ベトナム戦争での「戦略村」をまねたのだ。これが功を奏し、ゲリラ兵力は今、最盛期の６分の１の２０００人に減った。
こうした中、農地改革と富の公平な分配を主張して大統領選挙に圧勝したのがセレソ氏だった。しかし、農地改革も企業への課税も富裕層が反対し、左翼ゲリラとの交渉も、徹底殲滅を譲らない軍のため実現しない。満足に実行された公約は何もないのだ。
社会の全面改革を望む左派と、まったく変えないことを主張する右派との間で政府は板ばさみとなり、結局は強大な武力を握る右派の圧力に押さえ込まれた。左派は公約違反を問う。右派は、民主政権の存在自体を認めない。昨年５月と８月、２度も軍部によるクーデター未遂があった。
中米といえば、内戦が激しいニカラグアやエルサルバドルが絶えず注目される。しかし、その陰に隠れた形のグアテマラで多くの人々が苦しんでいるのである。

○平和を待つインディオたち
この１月、国会で孤児の売買が問題になった。内戦で２０万人以上の子が孤児となったが、孤児を世話するとだまして外国に売るのだ。１人当たり１００ドルで買い、米国で１人７４００ドルで売った例もわかった。臓器移植に利用された子もいると追及されたこともある。
この国の東北部に広がるジャングルの中には、塔の形をした高さ７０メートルものピラミッドがいくつも聳えている。かつて中米に栄えた古代マヤ文明の遺跡である。精巧な暦、独特の絵文字や巨石建造物を生んだ高度な文明は滅んだが、その子孫は今も生きる。グアテマラの人口の５６％を占め、ゲリラも小作農も大半が彼らインディオだ。山岳地方の村を回ると、インディオの女性が自宅で機を織るのをよく見る。赤や黄など原色の織物がまぶしいほどだ。その鮮やかさとは対照的に、彼らの表情は暗い。（伊藤千尋）

資料❼　グアテマラ内戦関連年表　(1)

1931年　ホルヘ・ウビコ独裁政権はじまる
1944年7月 ウビコ大統領辞任、後任にポンセが就任
10月 10月反乱 12月 自由選挙でアレバロが大統領に当選
1945年3月 アレバロ政権に就く
1945年　憲法の発布
1948年　グアテマラ労働者党結成
1949年　フランシスコ・アラーナ軍最高司令官、大統領候補に立候補声明直後に暗殺
1951年　アルベンス、大統領に
1952年　農地改革法
1953年　ユナイティド・フルーツ社所有のプランテーションおよび中央アメリカ鉄道の没収、国有化
1954年 6月　ホンジュラス領内よりカスティージョ・アルマス大佐による反革命軍のグアテマラ侵攻、首都制圧によりアルベンス辞任。国有化された土地等の返還。
1954年　憲法停止
1955年 1月20日　アルベンス派による反乱計画発覚。417名が逮捕，首謀者フランシスコ・コセンザ大佐はエルサルバドル大使館に保護を求め，フランシスコ・ベリオス大尉は国内に潜伏.
1955年　国会議員選挙．アルマスの創設した反共連盟のみが立候補を許される。
1955年　カスティージョ・アルマス大統領就任
1956年　憲法公布
1957年　カスティージョ・アルマス大統領暗殺
1958年　ミゲル・イディゴラス・フエンテス大統領選出
1959年　［キューバ革命］CIAによるグアテマラ領内での反カストロ軍事訓練開始。グアテマラ軍 内部は、その支持・反対をめぐり分裂。
1961年　イディゴラス・フエンテス大統領に対する 軍の反乱鎮圧（1960年11月）、武装反乱軍は山間部でゲリラ活動を開始（1962年年頭にゲリラ戦による抗戦を布告する）→これにより内戦期の開始を1960/61年にするかで所説がある）
1962年2 武装反乱軍グループは「ＭＲ13」結成（活動拠点をラス・ミナス山中にもとめる）
1963年軍によりイディゴラス・フエンテス大統領解任、ペラルタ・アスルディア大佐を大統領（暫定）に指名
1965年　憲法公布
1966年フリオ・セサル・メンデス・モンテネグロ 大統領選出。米グリーン・ベレー、ゲリラ鎮圧作戦「オペレーション・グアテマラ」を実施、カルロス・アラーナ・オソリオ大佐参加。米軍の爆撃等で八千人を殺害。テロ・グループ「ラ・マノ・ブランカ」等、暗躍。
1968年　駐グアテマラ・米大使ジョン・メイン暗殺
1969年　［エルサルバドル・ホンジュラス戦争（サッカー戦争）
1970年カルロス・アラーナ・オソリオ大統領選出、駐グアテマラ西大使カール・フォン・スプレッティ暗殺、［チリ、アジェンデ大統領当選］

資料❼　グアテマラ内戦関連年表　(2)

http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/guacivil.html　作成：池田光穂

1971年　武装人民組織（ORPA）結成、ベリーズの領有をめぐりイギリスと交渉決裂。
1972年　貧民ゲリラ軍（EGP）結成。陸軍銀行設立
1974年　ヘル・ラウヘルウ将軍、大統領に選出、［チリ、ピノチェト軍事政権］
1976年　チマルテナンゴ大地震、犠牲者二万二千、被災者百万人、［アルゼンチン軍事クーデター、ビデラ軍事政権］
1977年　ウエウエテナンゴから首都へ鉱山労働者の行進
1978年　立法議会、ロメオ・ルーカス・ガルシーア 将軍を大統領に指名。農民統一委員会（ＣＵＣ）発足。ケクチ・マヤ先住民パンソスで虐殺（100名）。米、グアテマラに武器輸出停止。
1980年　スペイン大使館占拠後、軍により炎上。スペインはグアテマラと国交断絶。ＯＰＲＡ、ＥＧＰ、ＦＡＲはＰＧＴ（グアテマラ労働党）と同盟関係
1981年　ＣＵＣ、公然活動を停止。チマルテナンゴ、ゲリラ鎮圧戦で1500名犠牲
1982年2月　グアテマラ国民革命連合（URNG）結成
3月 大統領選挙で、ルカス・ガルシアの後継者、アニバル・ゲバラ国防大臣が勝利宣言
3.23 ルカス・ガルシアの離任直後、アニバル・ゲバラ就任直前に、若手将校による三人委員会結成、エフライン・リオス・モント将軍が政権担当委員会（FUNTA）を掌握
4月　三人委員会「安全保障と開発計画」（PNSD）発令
6月 リオス・モント大統領就任。ゲリラ壊滅作戦にもとづく一連の政策（フリホレスと銃、民間自衛パトロール（PAC）制定し、２年間で90万人徴用）
1983年　1月 ［コンタドーラ・グループ第一回会議］中央アメリカ和平のための合意形成交渉の開始
［1983アルゼンチン軍事政権終焉］　8月 国防大臣オスカル・ウンベルト・メヒア・ビクトレス将軍クーデタ、リオス・モント大統領解任
1984年　世界先住民会議、国軍による先住民虐殺反対をアピール
1985年　7月1日国会議会選挙、憲法制定議会招集憲法制定。
1986年　キリスト教民主党ビニシオ・セレソ大統領就任。中央アメリカ五カ国エスキプラス宣言採択。アンドレス・ヒロン神父と農民（１万数千人）の土地要求デモ。
1987年　8月 エスキプラスII合意署名　9月 国民和解委員会（CNR）発足　11月 政府とグアテマラ国民革命連合（URNG）マドリードで会見
1988年　グアテマラ寡婦の会（CONAVIGUA）発足
5月 軍事クーデタ失敗　8月 軍事クーデタ失敗
1989年2月 グアテマラ労働党（PGT）、URNGと結合
5月 軍事クーデタ失敗
1990年　3月 国民和解委員会が仲介し、オスロでURNGと政府は和平の枠組について合意　6月 スペイン・エスコリアルで各政党関係者、URNGと話し合う
1991年　1月 ホルヘ・セラーノ大統領就任　4月 政府とURNGの和平交渉　12月 セラーノ大統領、軍改革
1992年　11月 リゴベルタ・メンチュ、ノーベル平和賞
1993年　5月 セラーノ大統領の憲法停止と議会解散（自作クーデタ）を発動、失敗、失脚（前年4月に フジモリ・ペルー大統領が成功）　6月 議会はラミロ・デ・レオン・カルピオ （前・人権擁護監視委員）を大統領に指名

1994年　1月 国連の仲介で、政府・軍・URNGがメキシコ市で「和平交渉再開の枠組合意」に署名
3月 「人権に関する包括協定」署名
6月23日 歴史の真実究明委員会（Comisio'n para Esclarecimiento Histo'rico）設置

1995年　3月多民族・多文化・多言語社会の理解のための「先住民族の権利とアイデンティティー憲章」が成立

1996年　1月 アルバロ・アルス大統領就任
5月 政府、URNGとの和平交渉に合意
9月 「民主社会における市民権と軍の役割強化に関する法律」成立：治安のために内務省にPNCを設置、PACは廃止される
12月29日 政府とURNG、包括的和平協定に調印（翌年5月URNGの武装解除完了）

1997年　5月 ［米国で情報公開法にもとづきCIAによる54年クーデタ関連文書を公開］　7月 国連真相究明委員会発足

1998年　4月26日 ファン・ヘラルディ司教、暗殺。『グアテマラ：歴史の想起―二度と再び』編集の１人

1999年　2月 歴史の真実究明委員会『グアテマラ：沈黙の記憶』出版
5月 URNGとの合意を盛り込んだ憲法改正案の成立
2000年　1月 アルフォンソ・ポルティージョ大統領（FRG)リオス・モント国会議長（FRG総裁）

資料❽　アメリカと中南米の関係史

伊藤千尋著「反米大陸　中南米がアメリカにつきつけるNO！」（集英社新書）巻末年表より

年表――アメリカと中南米の関係史

年	国	出来事
一八二三年	アメリカ	モンロー主義宣言
一八三三年	アルゼンチン	暴動が発生し米軍がブエノスアイレスに上陸、二週間駐留
一八三五年	ペルー	革命の動き。アメリカの権益擁護のため米海兵隊リマ、カヤオを占領
一八三六年	メキシコ	テキサス共和国がメキシコから独立
一八四五年	アメリカ	テキサス共和国を併合
一八四六年	メキシコ	アメリカとメキシコ間で米墨戦争勃発
一八四八年	メキシコ	米墨戦争に敗れたメキシコは国土の半分をアメリカに割譲
一八五二年	アルゼンチン	政変に際してアメリカの権益擁護のため米海兵隊が上陸、首都に駐留
一八五四年	ニカラグア	アメリカ外交官を侮辱した仕返しと称し米海軍が港を砲撃、破壊
一八五五年	ウルグアイ	政変に際してアメリカの権益擁護のため米軍が上陸
一八五六年	ニカラグア	アメリカ人ウォーカーが内戦に乗じて大統領に就任
	チリ	大陸会議でアメリカの侵略に対する防衛を協議
一八五八年	ウルグアイ	政変に際してアメリカの権益擁護のため米軍が上陸
一八五九年	パラグアイ	米艦艇がパラグアイを封鎖
一八六五年	コロンビア	パナマに革命の動き。アメリカ市民の財産と生命を守るとして米軍が上陸
一八六七年	ドミニカ共和国	アメリカがドミニカの併合を図り失敗、サマナ湾を租借
一八六八年	ウルグアイ	暴動に際してアメリカの権益擁護のため米軍が出動
一八七三年	コロンビア	パナマ地域の権益をめぐり米軍が出動
一八八五年	コロンビア	パナマ鉄道が運ぶアメリカ製品の免税化を要求し米軍が上陸
一八九〇年	アルゼンチン	アメリカ領事館保護のため米海兵隊が上陸
一八九一年	ハイチ	米海軍艦艇がハイチ沿岸を封鎖、湾の譲渡を迫る
	チリ	暴動に際して公使館保護のため米軍が出動
一八九四年	ブラジル	通商とアメリカの船舶を守ると称して米海軍がリオ・デ・ジャネイロに上陸
	ニカラグア	革命に際してアメリカの権益擁護のため米軍が出動
一八九五年	コロンビア	武装集団の襲撃に対してアメリカの権益擁護のため米軍が出動
一八九六年	ニカラグア	政変に際してアメリカの権益擁護のため米軍が出動
一八九八年	キューバ	アメリカとスペインの間で米西戦争勃発
	プエルトリコ	米海軍が占領
一八九九年	ニカラグア	米英海軍がカリブ海沿岸に上陸、一カ月駐留
一九〇〇年	プエルトリコ	アメリカがプエルトリコをアメリカの領土に編入
一九〇一年	キューバ	アメリカがキューバ憲法にプラット修正を盛り込ませる
一九〇三年	コロンビア	パナマ政権成立の動きに際して米軍が出動
	ホンジュラス	政変に際してアメリカの権益擁護のため米海兵隊が上陸
	ドミニカ共和国	政変に際してアメリカの権益擁護のため米海兵隊が上陸
	パナマ	独立。運河地帯の永久租借権獲得めざし米海兵隊が出動
一九〇四年	ドミニカ共和国	反乱の動きに米軍が出動
	パナマ	革命の動きに米軍が出動
一九〇六年	キューバ	革命の動きに米軍が出動、三年間占領
一九〇七年	ホンジュラス	ニカラグアと戦争。米軍が出動し要地を占領
	ニカラグア	ニカラグア左派の伸びを警戒して米海兵隊が上陸
一九〇九年	ニカラグア	内戦に際してアメリカの権益擁護のために米軍が出動
一九一〇年	ホンジュラス	内戦に際してアメリカの権益擁護のため米海兵隊が出動
一九一二年	キューバ	アメリカの権益擁護のため米海兵隊が出動
一九一四年	ニカラグア	内乱の発生で米海兵隊がニカラグアを占領
	ホンジュラス	アメリカの権益擁護のため米海兵隊が上陸
	ハイチ	暴動に際して米軍が出動
	ドミニカ共和国	反乱の動きに米軍が出動
一九一五年	メキシコ	米海兵隊がベラクルスを占領
一九一六年	ハイチ	米海兵隊が占領支配。一九三四年まで駐留
一九一六年	ドミニカ共和国	反乱の動きに米軍が出動、二四年まで駐留
一九一七年	キューバ	アメリカの権益擁護のため米軍が出動、二二年まで駐留
一九一九年	ホンジュラス	革命の動きにアメリカの権益擁護のため米軍が出動
一九二〇年	グアテマラ	内乱に際してアメリカの権益擁護のため米軍が出動
一九二五年	パナマ	ストに際して米軍が出動、多くの都市を占拠
一九二六年	ニカラグア	反政府暴動への弾圧を援助するため米海兵隊が上陸
一九三三年	ニカラグア	米海兵隊が上陸し"サンディーノの革命運動を鎮圧
一九五〇年	グアテマラ	アメリカに対抗するアルベンス政権が成立
一九五四年	グアテマラ	アルベンス政権がアメリカ支援の反政府軍侵攻で崩壊
一九五九年	キューバ	革命が成功
一九六〇年	アメリカ	キューバへの禁輸を発表
一九六一年	キューバ	キューバとアメリカが国交断絶、ピッグス湾事件
一九六二年	ドミニカ共和国	アメリカがドミニカに経済制裁
	アメリカ	ケネディ大統領が「進歩のための同盟」を提唱
	キューバ	ミサイル危機。アメリカはキューバを海上封鎖
一九六四年	パナマ	反米暴動。パナマ政府がアメリカに運河条約の改定を要求し断交
一九六五年	ドミニカ共和国	革命の動きに際して米海兵隊四万人が出動、占領
一九六八年	グアテマラ	内戦の中、アメリカ大使が射殺される
一九六九年	南米諸国	各国で反米デモが続発
一九七〇年	チリ	ペルー、ボリビア政府はアメリカ系石油会社を接収
	ウルグアイ	選挙により社会党のアジェンデ政権が誕生
一九七三年	チリ	都市ゲリラがアメリカ外交官を誘拐し射殺
一九七七年	アメリカ	クーデターでアジェンデ政権崩壊
	キューバ	カーター政権が発足。人権外交を展開
	パナマ	アメリカとの緊張緩和。相互に代表部を設置
一九七九年	ニカラグア	アメリカと新運河条約に調印、運河返還が決まる
	アメリカ	サンディニスタ革命が成功
一九八一年	ニカラグア	レーガン政権が発足
		アメリカが支援する反政府右派ゲリラにより内戦開始
一九八二年	アルゼンチン	フォークランド戦争。アメリカはアルゼンチンに経済制裁
一九八三年	グレナダ	米軍が侵攻
一九八九年	パナマ	米軍が侵攻。ノリエガ将軍を拉致
一九九〇年	ニカラグア	内戦が終了。アメリカが経済制裁を解除
一九九四年	メキシコ	北米自由貿易協定（NAFTA）発効
		サパティスタ民族解放軍が武装蜂起
一九九六年	ハイチ	無秩序状態となりアメリカの権益擁護のため米軍が出動
	キューバ	アメリカが制裁を強化するヘルムズ・バートン法を制定
一九九八年	ベネズエラ	チャベスが大統領選に勝利
一九九九年	パナマ	運河がアメリカからパナマに返還される
二〇〇二年	ブラジル	左派のルーラが大統領に当選
二〇〇三年	アルゼンチン	左派のキルチネルが大統領に当選
二〇〇五年	ウルグアイ	左派政権誕生
二〇〇六年	南米各地	チリ、ボリビア、ペルーで左派系政権誕生

資料❾　「憲法を考える映画の会」からのお知らせ

これからの「憲法を考える映画の会」

第44回憲法を考える映画の会

日時：8月25日（土）13：30～16：30
会場：文京区民センター3A会議室（いつものとこ）

プログラムはまだ決まっていません。
候補として次のような作品が出版されています。
１）関東大震災朝鮮人虐殺の問題から朝鮮人強制連行や朝鮮侵略、支配、差別に関係したもの
２）8月ということから侵略戦争、とくに日中戦争に照準を合わせたもの
３）反戦をテーマにした内外の劇映画の作品を掘り起こして上映。

■憲法を考える映画のリスト

今まで「憲法を考える映画の会」で見た憲法についての映画を中心に、これまでに試写した映画、 これからの上映候補として調べた映画を毎年リストにしています。

このほど30の新しい作品を加え2018年版を作り、紹介している作品は104作品になりました。

私達は自分たちでこのような「映画と話し合いの会」を開くとともに、こうした映画を使って、あちこちで、憲法や戦争や原発の問題など社会的で政治的な問題について、多くの人といっしょに考え、 話し合い、社会や政治に対する認識を深める場を作り、拡げていきたいと思っています。

そこでこの映画のリストでは、作品の解説だけでなく、どこでどの位で作品が借りられ、上映会をくことができるか、貸出の価格も「映画と話し合いの会」作りに役立つようにしています。
こうした映画のリストを販売していると、上映会場などで「あの映画も載ってる？」「この映画良かったよ!」とリストを手にしてお客さんと盛り上がります。
ぜひ「こういう映画もあるよ、良かったよ」と作品を教えてください。2019年版は年内に新しくしたいと思います。

関連映画上映情報

・これまで上映してきた映画の新しい上映会情報です。

「ハトは泣いている」上映会
と　き：2018年6月8日（金）13時30分～
ところ：調布市文化会館たづくり　映像シアター
　　調布市小島町2-33-1　（042-441-6111）
映　画：**「ハトは泣いている―時代（とき）の肖像」**
参加費：500円
主　催：調布ドキュメンタリー映画クラブ
　　080-441-2557 田中

「憲法を武器として」上映会
と　き：2018年6月13日（水）14時半～（開場14時）
ところ：衆議院第2議員会館多目的会議室

と　き：2018年7月1日（日）14時～
ところ：文京区民センター

と　き：2018年8月18日（土）14時～
ところ：文京区民センター
いずれも
映　画：**「憲法を武器として」**
ゲスト：内藤功弁護士（恵庭事件弁護団・元参議院議員）
参加費：1000円
主　催：タキオンジャパン（稲塚）090-3576-6644

■「憲法映画祭2019」に向けて、これから立ち上げていきたいいくつかの企画

- 憲法を考える映画のリスト2019年版制作
- 憲法を考える映画ホームページの充実
- 地域で地方で憲法を考える映画の利用を
- 映画制作者、自主上映グループ、各地の映画祭、映画施設との積極的連携
- 平和に役立つ映画を探し、みんなで上映可能に
- いくつかの企画のビデオ作品化
- 海外作品の独自の紹介やDVD配給
- 平和博物館での憲法を考える美術・写真巡回展企画
- 教育現場でドキュメンタリー番組の公開講座企画

主催：憲法を考える映画の会
〒185-0024　東京都国分寺市泉町3-5-6-303
TEL：042-406-0502
ホームページ：http://kenpou-eiga.com
E-mail：hanasaki33@me.com
Facebook：憲法を考える映画の会